

1 小単元名 武士の世の中へ

2 小単元について

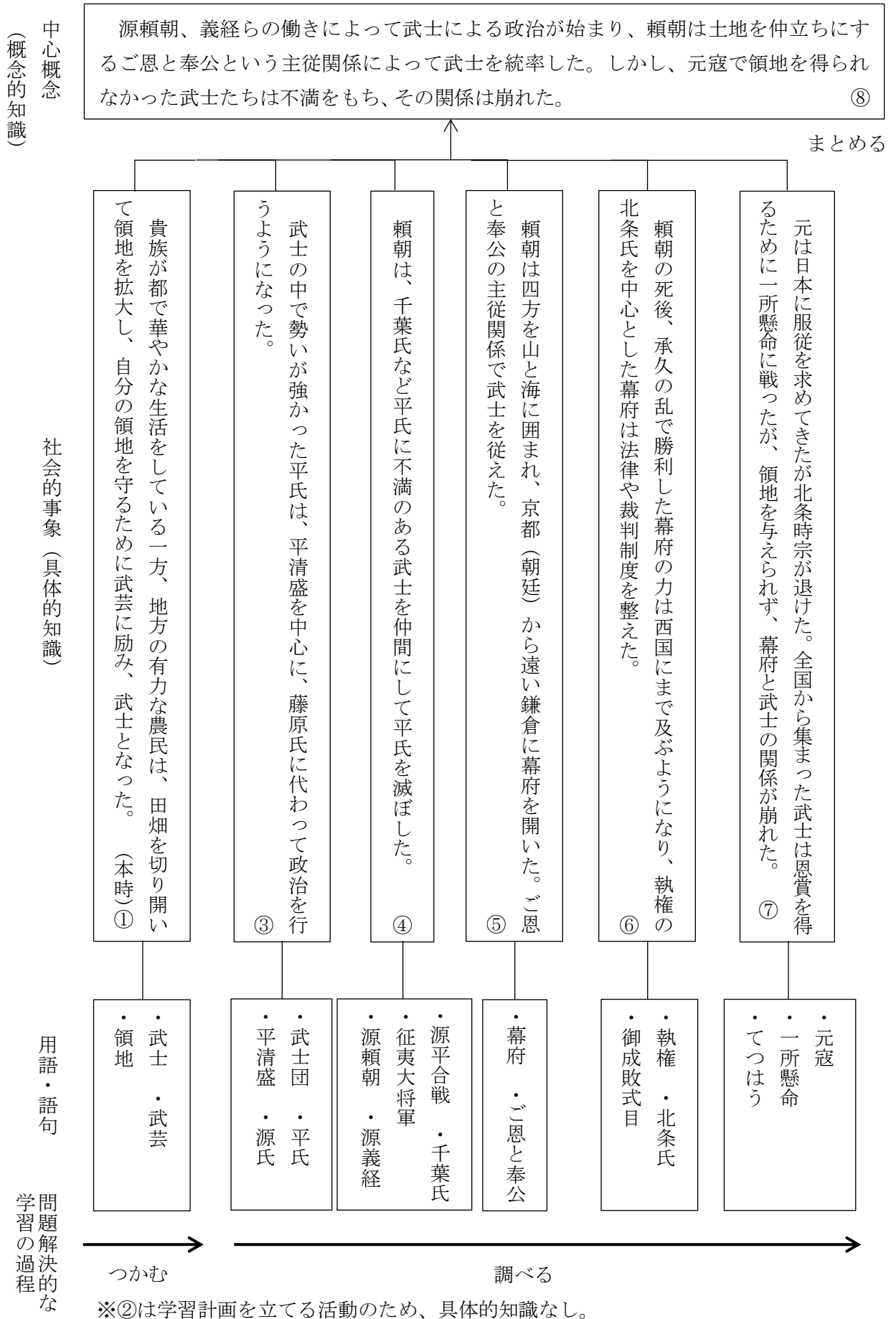
本小単元は、学習指導要領第6学年の内容(1)「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えようとする」とともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人たちの働きについて理解と関心を深めようとする。」のウ「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことがわかること」を受けて扱うものである。

本小単元「武士の世の中へ」では、武士が登場して源氏・平氏を棟梁とする武士団が生まれ、平治の乱で源氏が敗れたところから鎌倉に幕府が置かれ、やがて衰退していく時期までのうち、「源平の戦い」「鎌倉幕府の始まり」「元との戦い」の3つの歴史的な事象を主に取り上げる。資料の比較による読み取りを通して、武士による政治が始まり、それが確立していったことを理解させる。また、源頼朝や千葉常胤などの具体的な行動やエピソードを提示して、児童の関心を高めるとともに、その行動の裏側にある頼朝の幕府開府の思いや常胤の頼朝に対する思いも考えさせるようにしたい。

児童はこれまでに、「縄文むらから古墳のくにへ」で、縄文時代と弥生時代のむらの様子を調べ、生活の変化について学習してきた。また、身近にある加曽利貝塚の見学や埋蔵文化財調査センター出前授業の火起こし体験を通して、自分たちの住む千葉市に全国でも最大規模の遺跡があることに驚いたり、火一つ起こすのも大変な作業であったことを実感したりしていた。校外学習や体験活動のような実感を伴った学習による新しい知識の獲得に楽しさを感じているようである。「天皇中心の国づくり」の学習では、聖徳太子や聖武天皇などの人物に焦点を当て、誰がどのような目的や思いをもって国づくりを行っていたのかを念頭において調べてきた。結果、聖徳太子が天皇中心の国づくりを目指し、政治の仕組みを整えたことや聖武天皇が大仏づくりを行うこととなった時代背景を理解することができた。しかし、児童は問題把握の場面や調べる場面で、資料を読み取ったり、事象を比較し問題を見つけたりすることに苦手意識がある。資料にある事実は認識することはできるが、その裏側にあった理由や先人たちの思いまでは迫れていない。

そこで、本小単元では資料の出し方や見せ方を工夫し、歴史的な事象や人物同士を児童が比較することで、事象を多面的・多角的に捉える社会的な見方・考え方を養っていけるようにしたい。その際、資料を比較して読み取る視点を具体的に提示して指導にあたっていく。意図的に資料の一部分を隠し、順を追って提示したり、資料の見てほしい箇所だけを切り取って提示したりして読み取らせることで、事象同士を比較できるようにしていきたい。どこをどのように見て比較すればよいのかをはっきりすれば、気づきが増え、自分の考えがもてるのではないかと考える。気づきや考えがもてるようになれば、自信をもってより深く歴史的な事象に迫れるようになるだろう。本小単元の学習を通して、児童が社会的な見方を働かせて資料の比較を行い、時代やくらしが変化してきた背景をつかむことのできるよう指導していきたい。

3 知識の構造図



4 小単元の目標

- 武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産を通して、武士による政治が始まったことがわかるとともに、それらにかかわる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味について考えようとする。
- 武士の暮らしの様子や願いから学習問題を見だし、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、武士による政治が始まったことやそれらにかかわる人物の願いや働き、代表的な文化遺産について思考・判断したことを適切に表現する。

5 小単元の評価規準

評価の観点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	○武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きに関心を持ち、進んで調べようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	○武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ○武士による政治が始まったことやそれらにかかわる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味などについて思考・判断したことを適切に言語などで表現している。
観察・資料活用の技能	○武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きについて、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して必要な情報を集め、読み取っている。 ○調べたことを白地図や年表、作品やノートなどにまとめている。
社会的事象についての 知識・理解	○武士による政治が始まって新たな時代を迎えたこと、源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士の力が全国に及ぶようになったこと、元との戦いが鎌倉幕府の全国支配に大きな影響を及ぼしたことなどを理解している。

6 小単元の指導計画（8時間）

過程	時間	主な学習活動と内容
つかむ	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○1枚目の「平治物語絵巻」を見て、武士の登場を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・貴族ではない人たちがいて、貴族に従っている。 ・武士は刀を持っているから、戦うのではないか。 ○「武士のやかたの様子（想像図）」を見て、武士の生活の様子、武士と貴族の違いなどについて気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・馬に乗っていたり、世話をしていたりしている人達がいる。 ・貴族は遊んでいたけど、武士は戦いの練習をしている。 ・館の外には田んぼがあり、稲を育てている。 ○2枚目の「平治物語絵巻」を見て、疑問点を話し合い、学習問題をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・武士が貴族を押しつけて道の真ん中を歩いている。 ・武士が貴族に代わって台頭してきた。 ・武士が貴族に代わって政治を行ったのではないか。

		<p>武士の登場により世の中は、どのように変わり、武士はどのような政治を行ったのだろうか。</p>
	2	<p>○学習問題に対する予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦いが多い世の中になったのではないか。 ・武士の指導者が政治を進めたのではないか。 ・武士の指導者が何か政治の仕組みをつくったのではないか。 <p>○学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴族と武士の立場はどのようにして逆転したのか。 ・だれが中心となって政治を行ったのか。 ・武士はどのようにして国を治めたのか。 ・武士も貴族のように衰えていくのか。
	3	<p>○武士が勢力をのびた背景、平氏による武士の政治の始まりについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士団の中でも、平氏と源氏が力を付け、朝廷の命令で反乱をしずめていた。 ・平治の乱でより勢いのついた平氏が藤原氏に代わり、政治を行うようになった。 ・源氏が石橋山の戦いで敗れた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>武士の中で勢いの強かった平氏が、平清盛を中心に政治を行うようになった。</p> </div>
調 べ る	4	<p>○頼朝が武士たちを味方につけ、どのようにして平氏を滅ぼしたのか、地図や年表を使って「平氏と源氏」を比較し、調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉氏は相馬御厨の所有権を奪われた経緯から、平家に不満があった。 ・平氏一族による独裁政治に、貴族や他の武士たちの間で不満が高まった。 ・源頼朝が平氏を倒そうと兵を挙げると、自分たちの領地を認めてくれる新しい頭を求めている武士たちが集まった。 ・日本中の武士が、源氏と平氏に分かれて戦い、源義経らの働きによって、源氏が平氏を滅ぼした。 ・源氏の頭領として、源頼朝が征夷大將軍に任ぜられた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>頼朝は千葉氏など平氏に不満をもつ武士たちを仲間にして勢力を拡大し、義経の働きによって平氏を滅ぼした。</p> </div>
	5	<p>○頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由を「鎌倉と京都」の復元模型や日本地図上の「朝廷と幕府の位置」を比較して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉は四方を山と海に囲まれているため、攻めにくい。 ・京都から遠いため、朝廷の影響を受けにくい。 <p>○千葉常胤の領地が源平合戦、奥州合戦後増えた資料からご恩と奉公の主従関係が成り立っていたことを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉氏は頼朝のために戦ったから、領地を増やすことができた。 ・頼朝はご恩と奉公の主従関係で武士たちを従えた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>頼朝は、敵が攻めにくい鎌倉に幕府を開いた。そして、千葉氏をはじめとする武士をご恩と奉公の主従関係で従えた。</p> </div>

	6	<p>○頼朝の死後、鎌倉幕府の支配はどのようになったのかを「北条政子のうったえ」と後鳥羽上皇の「院宣」を比較して、調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北条氏が執権として政治を行った。 ・幕府のもとに集まった武士たちは、承久の乱で朝廷の軍を打ち破った。 ・初めての武士のための法律である御成敗式目が制定された。 <p>承久の乱後、幕府の力は西国にまで及ぶようになり、執権の北条氏を中心とした幕府は法律や裁判制度を整えた。</p>
	7	<p>○「鉢の木物語」と「蒙古襲来絵巻」での武士の置かれた状況を比較して、元との戦いやその後の鎌倉幕府の様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士たちは、元軍の集団戦術や火薬兵器などに苦しみながら、恩賞を得るために一所懸命に戦った。 ・鎌倉幕府は、元との戦いで活躍した武士たちに新しい領地を与えることができず、ご恩と奉公の関係はくずれていった。 <p>○「承久の乱の主な戦場」と「元寇の主な戦場」を比較して、調幕府から十分な恩賞を得ることができなかった理由を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・承久の乱は幕府対朝廷の戦いだったため、領地をもらうことができた。 ・元寇を退けても、元の領地がもらえるわけではなく、幕府は新しい領地を与えることができなかった。 <p>元は日本に服従を求め、攻めてきたが北条氏がそれを退けた。全国から集まった武士は恩賞を得るために一所懸命戦ったが、領地を与えられず、幕府と武士の関係はくずれた。</p>
まとめ	8	<p>○武士の発生から元寇までを4つに区分し、それぞれを4コマ漫画にして、鎌倉時代とはどのような時代なのかを全体で共有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①武士の中で勢いの強かった平氏が、平清盛を中心に政治を行うようになった ②頼朝は千葉氏など平氏に不満をもつ武士たちを仲間にして勢力を拡大し、義経の働きによって平氏を滅ぼした。 ③頼朝は、敵が攻めにくい鎌倉に幕府を開いた。そして、千葉氏をはじめとする武士をご恩と奉公の主従関係で従えた。 ④頼朝が武士たちと築いたご恩と奉公という関係は、元との戦いで新たな領地をもらえなかったことによりくずれた。 <p>源頼朝、義経らの働きによって武士による政治が始まり、頼朝は武士をご恩と奉公という主従関係によって統率した。しかし、元寇で領地を得られなかった武士たちは不満をもち、幕府の力は弱まった。</p>

7 市教研社会科研究主題のための方策

市教研社会科研究主題

変貌する未来を切り拓く社会科学習 ～手応えの発見につながる『深い学び』の探求～

<本年度主題解明のための方策>

研究内容1 「深い学び」に導く単元づくり

研究内容2 「深い学び」に導く授業づくり

本小単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

研究内容1 「深い学び」に導く単元づくり

○単元構成の工夫

本単元は前単元と比べて考えたり、本単元での既習事項を関連付けて考えたりする場面が多く設定できる単元であり、この単元を通して事象を関連させてとらえる社会的な見方・考え方を育てていきたい。

「社会的な見方・考え方」とは、「源平の戦い」「鎌倉幕府の始まり」「元との戦い」の3つの歴史的な事象を事実として認識するだけでなく、それらを時間的・空間的に比べることで、武士が中心となって政権を握る時代の流れや頼朝や北条氏の行動の裏にあった思いに迫ることのできる見方・考え方のことをさす。「つかむ」「調べる」「まとめる」それぞれの段階で、資料から歴史的な事象を時間的・空間的に比較して調べたり、考えたりするような単元構成を組んでいく。「つかむ」段階では、2枚の平治物語絵巻を活用する。1枚目は、児童が武士の登場をつかむことのできるよう、その服装や身に着けている武器に着目させ、貴族とは違う人たちが登場してきたことを認識させる。そして、武士の館の様子を貴族の屋敷の様子と比較させて武士の暮らしについての読み取りを行う。武士と貴族の生活の違いから、武士は自分の領地を守るために武芸に励んでいたことを気付かせる。最後に、武士が貴族に代わって時代の中心となっていくことをつかませるために、もう一枚の平治物語絵巻を提示する。その際、意図的に資料の一部分を隠し、順を追って提示することで、児童は受け取る情報を整理しながら事象を読み取ることができると考える。「調べる」段階では、「平氏と源氏」の比較を通して、源平の栄枯盛衰の背景を、「幕府と朝廷」の比較を通して、ご恩と奉公の主従関係の根強さを、「元寇襲来前後の武士」の比較を通して、ご恩と奉公の関係が崩れたことをそれぞれ読み取らせていく。以上のように、単元を通して児童が社会的な見方を働かせて資料の比較を行い、時代や暮らしが変化してきた理由や背景をつかむことのできるよう指導していく。比較による資料の読み取りを積み重ねることで、歴史的な事象を多面的に捉えようとする姿が見られるようになるだろう。

研究内容2 「深い学び」に導く授業づくり

○社会的な見方を捉えやすくするための資料提示の工夫

本学級の児童は、資料を比較して問題を見つけたり、考えをもったりすることが苦手である。そもそも、資料のどこを見ればよいのかが定まっておらず、資料の読み取り自体に苦手意識がある。そこで、本小単元では、資料を読み取る際には児童に具体的な視点を与え、丁寧に読み取らせていく。人（様子）や特徴的な物、大きく変化した箇所などに着目させる。視点を与えることで資料の要所をつかむことができると考える。また、出し方や見せ方を工夫して資料を提示していく。意図的に一部分を隠し、順を

追って提示したり、資料の見てほしい箇所だけを切り取って提示したりして読み取らせることで、事象同士を比較できるようにしていきたい。

本時では、2枚の「平治物語絵巻」を活用する。1枚目は、児童が武士の登場をつかむことのできるよう、その服装や身に着けている武器、背景などに着目させ、貴族との違いをはっきりさせる。そこで、武士はどのような人たちなのだろうかと投げかけ、予想させることで、貴族とは違う人たちが登場してきたことを認識できるようにする。そして、武士の館の様子を貴族の屋敷の様子と比較させて武士のくらしについての読み取りを行う。武士と貴族の生活や行動の違いから、武士は自分の領地を守るために武芸に励んでいたことを気付かせる。最後に、武士が貴族に代わって時代の中心となっていくことをつかませるために、もう一枚の平治物語絵巻を提示する。1枚目の「平治物語絵巻」と武士の置かれている状況が変化していることを読み取ることで、武士が力を持ち、時代の中心になってきたことをつかむことができるだろう。以上のような資料の比較を、小単元を通して行い、多面的に歴史的事象をとらえることにより、児童の社会的なものの見方・考え方を養っていきたい。

8 本時の指導（1/8）

（1）本時の目標

2枚の平治物語絵巻や武士の館と貴族の屋敷の比較を通して、武士の台頭、武士の生活の様子、武士と貴族の違いについて読み取り、学習問題をつくることができる。（思考・判断・表現）

（2）本時の展開

学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
1 前時までの学習を振り返る。 ・平安時代は、貴族が政権を握っていた。 ・貴族は、都で華やかで豊かなくらしを送っていた。 ・平安時代には日本風の文化が生まれた。	○平安時代は貴族が中心となって、政治を行い、都で華やかな生活をしてきたことを想起できるように、前時までの学習の掲示物に目を向けさせて、振り返りをする。	前時までの学習の掲示物
2 1枚目の「平治物語絵巻」を見て、武士の登場を読み取る。 ・武士は貴族の家来みたいだ。 ・武士は刀を持っているから、貴族と違って戦うのではないか。 ・武士はどんなくらしをしていたのだろう。	○武士の特徴をつかませるために、服装や身に着けているものに着目するよう助言する。 ○武士との違いをはっきりさせるために、牛車に乗った貴族と会話する武士の場面を拡大して提示する。	平治物語絵巻 信西の巻
武士とはどのような人々なのか話し合い、学習問題をつくろう。		
3 武士のやかたの様子（想像図）を見て、武士の生活の様子、武士と貴族の違いなどについて、気が付いたことを話し合う。 ・貴族のやしきやくらしと比較すると、なんだか貧しそう。 ・馬に乗って弓矢の訓練をしている。	○読み取りが苦手な児童には資料を読み取ることのできるように、「人（様子）」や「館の様子（つくり）」、「館の周りの様子」に着目するよう助言する。	武士の館の様子（想像図）

<ul style="list-style-type: none"> ・堀や物見やぐら、柵があるということは、争いごとがあったのではないか。 ・米や土地をめぐる争っていたのではないか。 <p>4 2枚目の「平治物語絵巻」を見て、疑問点を話し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士が貴族を押しつけて道の真ん中を歩いている。 ・武士が力をもつようになった。 ・貴族と武士の立場はどのようにして逆転したのか。 ・武士が貴族に代わって政治を行ったのではないか。 ・だれが中心となって政治を行ったのか。 ・武士はどのようにして国を治めたのか。 ・武士も貴族のように衰えていくのか。 	<p>○事実と考えを混同して書いている児童には、それらを整理して書くように促す。</p> <p>○児童が思考の流れを整理しやすくするために、「人(様子)」や「館の様子(つくり)」、「館の周りの様子」の視点に分けて、板書する。</p> <p>○児童が受け取る情報を整理しながら事象を読み取ることができるよう、武士が徒党を組んで歩いている部分と生首の部分を隠し、順を追って資料を提示する。</p> <p>◆2枚の平治物語絵巻や武士の館と貴族の屋敷の比較を通して、武士の台頭、武士の生活の様子、武士と貴族との違いについて読み取り、学習問題をつくっている。</p> <p style="text-align: right;">[思考・判断・表現] (ノート・発言)</p>	平治物語 絵巻 信西の巻
武士の登場により、世の中はどのように変わり、武士はどのような政治を行ったのだろうか。		